



卒業おめでとうございます。法学類月報第63号では、3月で退職される榎見由美子先生のエッセイ、エジンバラ語学研修のレポート、法学類OGの安田友さんからの先輩メッセージをお届けします。

◆◆教員エッセイ◆◆

第 28 回 榎見由美子先生（法務研究科・民法）

◆「金沢大学を去るに当たって」

この3月31日をもって34年間にわたりお世話になった金沢大学を去ることになりました。学生時代の6年間を合わせると、この期間は40年間に及びます。その間、金沢大学は、丸の内の金沢城社のキャンパスから、雉やたぬき、かもしか、果ては熊も出没する角間（鹿熊？）キャンパスに移転し、学部の教育組織も法学部から人間社会学域法学類に改組し、法曹養成の教育組織として法科大学院も創設されました。私個人としては、金沢大学で教育と研究に引続き従事しながら、二人のこどもの成長を見守り、そして、父母に寄り添いながら最後まで見送ることができました。

さて人生には様々な職業選択の機会がありますが、未来ある学生さんと日々の活動の場所をともにし、その法学教育の一端を担うことができたこと、同僚の教員や職員の方々との日常のおしゃべりや学問的議論に一喜一憂する等、恵まれた環境の中で最後まで過ごせたことで、大学教員のなんともいえない「お得感」を充分満喫しながら職務を終えることができました。楽しい思い出は数えきれないほどあります。研究室での同僚の教員、ゼミ生、そして院生たちとの茶菓をお供の語らいや、二人の子連れでのゼミの研修旅行、岐阜の山中で学生さんが持参した毛布にみんなで寝転んで降るような流れ星にたくさんの願い事をしたこと、ジタバタする長男を大浴場に連れて行ってくれたゼミ生たちのこと・・・、そして、志望した就職先からの内定通知、進学先の大学院からの合格通知、そして司法試験の合格通知等。その一方で、無念にも夢をかなえることができなかった学生さんに何と言って励ましたらよいのかと心を痛めた日々が走馬灯のように思い出されます。

これまでの人生をふりかえって想うことは、——維新の英雄 高杉晋作の言葉を借りていえば——「おもしろき こともなき世を おもしろく」（ここで、高杉の力が尽き、筆を落としてしまいます）「すみなすものは 縁なりけり」（野村望東尼が、先ほどの句に「すみなすものは心なりけり」を付けたとされる）と詠みたいと思います。御厚誼を受けた皆さんに感謝しつつ、4月からまた新たな出会いがあることを楽しみに過ごして参りたいと思います。

Edinburgh
だより 2019

「あなたの英語力は向上しましたか？」——今の僕なら自信をもって「はい」と答えます。エジンバラでの3週間の生活は、僕にはとても短く感じられました。

法律英語研修では大きく二つ、「スコットランド法制度」と「英語での自己表現」を扱います。法制度について、裁判所や議事堂を訪れ、実際に法律が誕生し行使される場

所に触れながら、日本との相違を学びます。自己表現については、基本の発音から“使える”表現まで、様々な場面で役立つ英語スキルを身につけます。

最終週には、興味のある社会問題や法的問題についてプレゼンします。準備をはじめた時は、日本語でも緊張するような難しい論点について英語で説明するなんて、絶対に不可能なんじゃないかと不安でいっぱいでした。しかし、本番ではプレゼンする側も聴衆側も、英語で自分の意見を述べ、活発に議論できるようになっており、ほとんどの学生が「プレゼンを楽しめた」と言うほどでした。

学ぶ以外の楽しみもあります。エジンバラ城や国立美術館などの観光名所には、放課後に徒歩やバスで行くことができます。パブも充実していて、日本でなかなかお目にかかれないビールやウイスキーを楽しめます。お酒が苦手な人には、隠れ家的なカフェもあります。ホストファミリーに おすすめを尋ねて、行ってみるのもありますよ。食べ物も、味が少し特徴的なものもありますが、慣ればおいしく、今では少し恋しいくらいです。



エジンバラは、金沢に似て少し寒いですが、非常に過ごしやすい街です。現地の人々は気さくで、僕の拙い英語を懸命に理解して、応対してくれます。とにかく留学をしてみたい、自分の英語力を試してみたいという方にはぴったりのプログラムです。ぜひ検討してみてください。 法学類3年 清水 祐紀



「私の人生の転換点」

みなさんは、研究大学院への進学を考えたことはありますか？多くの人にとって大学院は未知の世界で、進学を考える人は少ないと思います。ですが、大学院はみなさんが思う以上に、スキルアップに繋がる場所です！

私の場合、学部3年の頃に国際私法ゼミに所属し、九州大学との合同ゼミで九大生に大敗しなければ、大学院への進学はありえませんでした。この悔しさをバネに、国際関係法を英語で開講し、留学生も多く受け入れている九州大学大学院法学府への進学を決意しました。

在学中には、オランダへ留学もしました。留学先では、オランダやフィンランド等、多国籍の友人との交流のおかげで日常会話はもちろん、学術的な英語を駆使した授業を通して、学部どころに比べて飛躍的に高度な英語を使えるようになりました。実際、TOEIC のスコアは帰国後に890点まで伸びました。

修士論文の執筆には非常に苦戦しましたが、論理的思考を徹底的に鍛えられました。指導教員の先生の厳しい指導にめげず、論理的思考を伸ばせるように努めました。その結果、就職活動でも思考力や忍耐力が評価され、夢だった商社からの内定につながったと思っています。

大学院生活を通して、いかに自分が無知であるかを痛感しました。他国の学生は、文化や芸術、宗教や社会情勢に精通していました。私も少しでも追いつこうと、宗教や歴史から学び始めています。このように大学院では様々な面で、自分の能力を高めるきっかけを得られます。私の人生の転換点となった選択と同じように、これを読んだ人が大学院進学を志し、自分の夢へ近づく一助になればと思います！

安田 友（2016年法学類卒業 2019年九州大学大学院修士課程修了）



法学類P
ANGO!



- 法学類の学生、卒業生、教員に関係するイベント等の情報を、ぜひお寄せください。
- 関係者の皆様のご寄稿を歓迎します。採用された方には、法学類グッズを進呈します。
- 本誌のバックナンバーは、金沢大学法学類 Web サイトに掲載していますのでご覧ください。 (<http://law.w3.kanazawa-u.ac.jp//category/brochure/geppo>)
また、メールでの定期配信（無料）をご希望の方は、金沢大学人間社会系事務部 学生課 (n-kyomu@adm.kanazawa-u.ac.jp)までお申し込みください。
- お読みになってのご意見ご感想は、上記メールアドレスまでお寄せください。